

熊本から水俣の思いを発信

—学びを共有し実行する力を—

高森町立高森中央小学校 教諭 坂本 博紀

キーワード：水俣、遠隔合同授業、Web 共有ボード、テレビ会議

実践の概要

本校では、テレビ会議システムを活用した遠隔合同授業を行っている。総合的な学習の時間（高森ふるさと学）に地域の枠を越えて、遠隔地にある学校（球磨村立渡小学校）とつながり、同じテーマのもと意見交換し、新聞にまとめる活動を行った実践である。

1. 目的・目標

1. 1 「人権」と「環境」

熊本県の5年生は、水俣について学び、現地学習を行う。学習の目的・目標は、学習を通して水俣病について正しく知り、差別を許さない態度を育てること、環境の大切さについて学び、自分にできることを考え、実行できる力を育てることである。

1. 2 学びを広げ、深める

本実践では、Web 共有ボードとテレビ会議システムを活用して、学んだことを共有する。遠く離れていても、同じ意見に共感したり、新たな意見に出会ったりする中で、自分たちの学びを広げ、深めることができる。そして、これまで以上に人権や環境のことについて考え、実行できる力を高めることがねらいである。

また、この取組を進めていく中で、学級の児童同士のつながり、遠隔地の渡小学校の児童との絆を深めたい。

2. 実践内容

2. 1 意見の整理

児童は Web 共有ボードを活用して、グループごとに「人権」か「環境」のどちらかについての意見を書き込んでいくようにした。両校で一枚のデジタルシートを分割して活用し、遠く離れていても1枚のシート上で意見を交流することができた。一人一人の記入箇所には、テレビ会議のときに顔が分かるように、自分の顔写真と考

えをアップするようにし、誰がどんな意見を持っているのか分かるようにした。



写真1 Web 共有ボードに考えを書き込む児童

2. 2 意見の共有

テレビ会議では、同じテーマのグループで意見交換を行った。テーマについての自分の考えを発表した後、質問したり自分たちにできることを意見交換したりすることで、遠く離れていても同じ意見に共感したり、新たな意見に出会ったりして、学びを深めることができた。特に差別・偏見はいけないという意見は、たくさんの児童が述べており、両校で十分に共感できていた。

また、意見交換の中で渡小学校5年生の学級の様子を聞き、相手を思いやる気持ちを大切に行動していることを知り、自分たちに足りないものに気付くこともできた。

最後は、交流を通して学んだことや感じたことなど授業を振り返り、自分たちにできることや取り組んでいきたいことをまとめた。

【単元計画】

Web 共有ボードに書き込んだり読んだりする時間と、テレビ会議で顔を合わせる時間とを交互に設けるようにした。テレビ会議前に一人一人の考えが Web 共有ボードで共有化され、それについて自分の考えを持っておくことで、テレビ会議の際に質問や意見が活発に出て、深まりのある意見交換ができるようにした。

時数	学習活動	ICT活用
1	渡小学校5年生とテレビ会議で交流することを知らせ、グループ編成（高森中央小6・7名、渡小5名）を行い、Web 共有ボードに自己紹介を書き込む。	Web 共有ボード
2	電子黒板でテレビ会議を行い、自己紹介をする。自己紹介はグループごとに行い、一人一人の自己紹介の後、質問タイムを設けて交流する。（1グループ10分程度）	テレビ会議システム
3-4	Web 共有ボードにグループごとのテーマについて自分の考えを書き込む。書き込みの後、相手の意見に付箋で質問や意見を書き込む。	Web 共有ボード
5	電子黒板でテレビ会議を行い、意見交換する。意見交換会はグループごとに行い、自分の考えを述べたり、付箋の質問に答えたりする。（1グループ10分程度）	テレビ会議システム
6-7	深まった考えを、Web 共有ボードを活用してグループごとに新聞づくりを行う。グループごとに記事を分担し、1枚のシート上に作成していくようにする。	Web 共有ボード

2. 3 交流新聞

テレビ会議の後、Web 共有ボードを活用し、学んだことを通して交流新聞を作成した。記事の内容を「水俣について学んだこと」「自分たちにできること」「交流を通して学んだこと」「相手へのメッセージ」の4点に絞り、両校でそれぞれ分担をして記事を書いた。

記入後は、互いに読み合い、学んだことを確かめたり、新たな考えに触れたりして学びを深めた。記事からは、「水俣病について正しく知ることの大切さ」「差別は絶対にしてはならないという強い思い」「環境を守るために自分たちがこれから取り組んでいくこと」がよく伝わってきた。

3. 成果

3. 1 新聞記事より

新聞記事からは、児童がこの学習で何を学び、どう感じたのかがよく伝わり、交流を通すことで学びがより強固になったり、広がったりしたことが分かる。以下は実際に児童の記述である。

- ・僕は、交流を通して、渡小の人たちの意見や感想が知れてよかったです。渡小の人たちの意見と中央小の人たちの意見が共通している部分は、差別・偏見はしてはいけないということです。僕は差別・偏見はもちろんしてはいけないし、いじめもしてはいけないと思います。だから、それを注意できる人になりたいと思います。
- ・自己紹介や意見交換をするうちに仲良くなって、それと同時によい学習ができたと思います。水俣病の意見交換では中央小では出なかったことに気付いているのですごくいいと思いました。また、意見交換をして渡小の人たちと仲良くなりたいと思いました。



写真2 テレビ会議で意見を交換する様子

3. 2 取組を通して

この取組の大きなメリットは、水俣という同じテーマのもと考えた意見を、遠隔地の児童と共有し、同じ思いを持っていて実感できたことである。それは、水俣の方が伝えたかったことであり、子どもたちに学んでほしいことでもある。お互いに共感し、自分たちにできることをしっかり考えた子どもたちは、環境を大切にしたい行動や友だちを大切にしたい言動が見られるようになった。学びを共有し、実行する力を高められたと感じている。そして、ICTはこの学びをサポートし、学習成果を高めるために効果的であった。

4. 今後に向けて

Web 共有ボードとテレビ会議システムを連動させた活用は、児童が直接対面せずとも多様な考えに出会う機会を増やし、活発な意見交換へとつながった。今後は、他の教科や領域などにも生かしていきたいと考える。

また、同じテーマで学習を行い、他校の児童と意見交換を交えながら学んでいくことは、ねらいとする態度の育成に大きな成果があった。今後も継続して行っていくたい。

高森、渡小人権新聞

水俣について学んだこと

私が水俣について学んだことは、決して差別をしてはいけないということです。どうやら差別はなくなるのか、それは、「誤解しないこと」です。「本当のことをいう」ということが大切だと思います。だから私も、けんかがないように、強く言わない、相手の気持ちを考えて行動する、ということを意識したいと思います。【名前】

私が水俣病について学んだことは、差別・偏見はしてはいけないということです。差別・偏見をすると、その人はきずつくし、その家族、知り合いの人もきずつくからです。【差別・偏見をなくすためには...?】

- ・誤解をしない。
- ・ちくちく言葉（人が嫌がる言葉）は、使わない。
- ・言う前に、この言葉は言っているのか？ 言っていないのか？ を考える。
- ・「決めつけ・悪いこみ」はしない。
- ・人をからかわない。

だと思っています。【名前】

私が学んだことは、差別・偏見は、絶対にしてはいけないという事と勝手に決めつけてはいけないということです。

水俣病で苦しんだ方々や亡くなった方は、たくさんおられます。今でもたくさんの方が苦しんでおられます。水俣病の差別や偏見は誤解で起こったことなので、早く水俣病が見つかれば差別や偏見はなかったと思います。人の気持ちを考えて行動することやいじめをしないことなど水俣病で学んだことはたくさんあると思います。【名前】

私が水俣病について学んだことは、絶対に差別や偏見をしてはいけないということです。そのためには、やはり「決めつけや悪いこみをしない」ということだと思っています。決めつけや悪いこみは、その人のことをあまりよく知っていないのに決めつけることで、本当はちがうのに勝手に悪いこみをしてみよう、そのことが原因で差別や偏見をしてしまうからです。

差別や偏見をなくすには？

- ・あまりよく知らないのに勝手に悪いこみで差別や偏見をしない。
- ・相手のことをよく知る。

ことだと思っています。【名前】

自分たちにできること

ちくちく言葉は、友達にのこって悲しい思いをさせるので、言わないように気を付けていきたいです。ほくだけでなく、みんなで気を付けていくことだ大事です。みなさん、気を付けていきましょう！！ 【名前】

ちくちく言葉や、相手の悪口など、自分が言われて嫌なことは、友達にはしては行かないと思います！私は、私だけ努力するのではなく、一人一人が、努力し、仲の良いクラスにしていきたいです。！ 【名前】

交流を通して

ぼくは、高森中央小学校との交流を通して、水俣病のことや自分の好きなスポーツや食べ物などを交流しあいました。水俣病では、いろいろな意見がでてきて分かりやすかったです。じこしょうかいでは、いろいろなことが分かりました。楽しかったです。【名前】

私は、渡小との交流を通して、水俣病の事をもっと詳しく知る事が出来ました。自分の考えも深まったので、よかったです。本当に、差別、偏見は、絶対にしてはいけないと思いました。それに、勝手に決めつけたり、誤解したりしないようにしたいです。【名前】

僕は、交流を通して、渡小の人たちの意見や感想が知れてとてもよかったです。渡小の人たちの意見と中央小の意見が共通している部分は、差別、偏見はしてはいけないということです。僕は差別、偏見はもちろんしてはいけないし、いじめもしては行けません。だから、それを注意できる人になりたいです。【名前】

相手へのメッセージ

交流を通して、自己紹介や、意見交換などをするうちに仲良くなってそれと同時によい学習できたと思います。そして水俣病の意見交換で中央小では出なかった事に気づいているのですごくいいと思います。

これまで、意見交流などをして下さって、ありがとうございます。高森中央小学校の方たちと交流することで、自分たちにはない考えを知ることができて、よかったです。自己紹介のときは、高森町のことや、高森中央小学校のことが知れてよかったです。本当にありがとうございます。【名前】

交流を通して、自己紹介や、意見交換などをするうちに仲良くなってそれと同時によい学習できたと思います。そして水俣病の意見交換で中央小では出なかった事に気づいているのですごくいいと思います。

これまで、意見交流などをして下さって、ありがとうございます。高森中央小学校の方たちと交流することで、自分たちにはない考えを知ることができて、よかったです。自己紹介のときは、高森町のことや、高森中央小学校のことが知れてよかったです。本当にありがとうございます。【名前】

両校の児童が作成した交流新聞